

出石  
いすし  
城下町

# 伝建 かわら版



令和3年3月24日発行

豊岡市 出石振興局：兵庫県豊岡市出石町内町1番地

TEL 0796-52-3111

## 伝建地区防災計画 「住民報告会」開催報告

豊岡市では、今年度から2年間にわたり、出石伝建地区の防災計画を策定するための調査・分析を立命館大学歴史都市防災研究所にお願いしています。

今年度（1年目）の調査・分析内容について、**出石伝建地区および周辺地区にお住まいの皆さまへの報告、また意見交換を目的**とした「住民報告会」を、2021年2月19日（金）に出石庁舎で開催しました。

コロナ禍のため、出石庁舎会場に加えオンライン（リモート）で開催し、出石庁舎会場では25名、オンラインでは14名（事前申込人数）の皆さんにご参加いただきました。

当日は、立命館大学の大窪先生、金先生、豊田先生が会場にお越しいただき、災害リスクに応じた7つの調査チームの先生方や学生さんから、現地調査等によって明らかになった課題などをパワーポイントを使って分かりやすくご説明いただきました。

今回は、住民報告会で出た住民の皆さんからのご意見やご質問の一部をご紹介します。

詳しい内容などご興味のある方は、出石振興局 地域振興課（0796-52-3111）までお問い合わせください。

### ▼当日の出石庁舎会場の様子▼

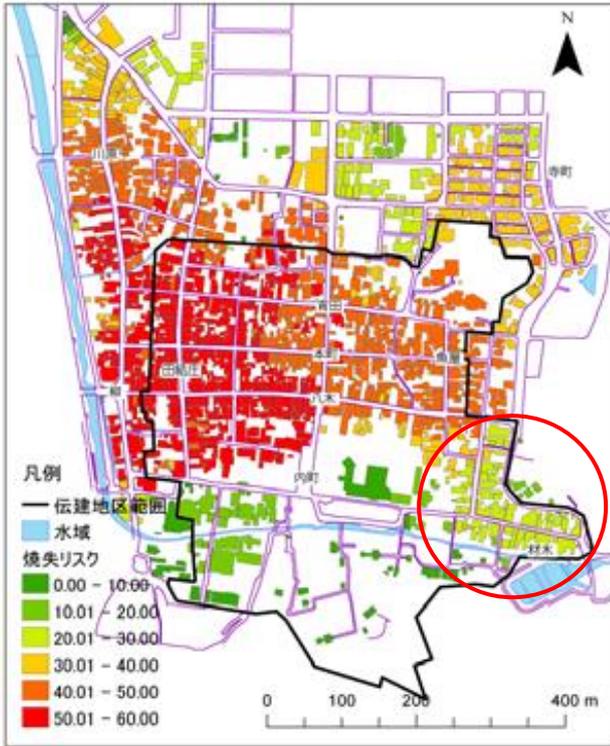


▲会場は感染防止に配慮し、人数を制限して開催しました



▲各先生からの報告はオンライン（リモート）をメインに利用し、庁舎会場には少人数でお越しいただきました

## 会場での質疑応答（一部抜粋）



▲城下町エリアの焼失リスク（火災対策チーム）

### 材木・魚屋の火災リスクは低い？

Q. 火災時の延焼の危険性について、材木や魚屋の焼失リスクが低くなっているのはなぜか（※左図では、赤に近づくほどリスクが高い）

A. このシミュレーションでは、ランダムで1軒を出火させ、その燃え広がり具合によって何回他所の出火から火をもらうかを検証している（消火活動は含まれていません）。

田結庄や八木西側のように、四方に建物が密集しているエリアは当然に焼失リスクが高いが、材木・魚屋は1本の通りに建物が並んでいるエリアのため、火をもらうリスクが他と比較して低いと判断されている。

シミュレーションでは低いと判断されているが、このエリア内で火災が発生した場合は、当然隣の家に延焼するので、低いからと言って安全な訳ではない。



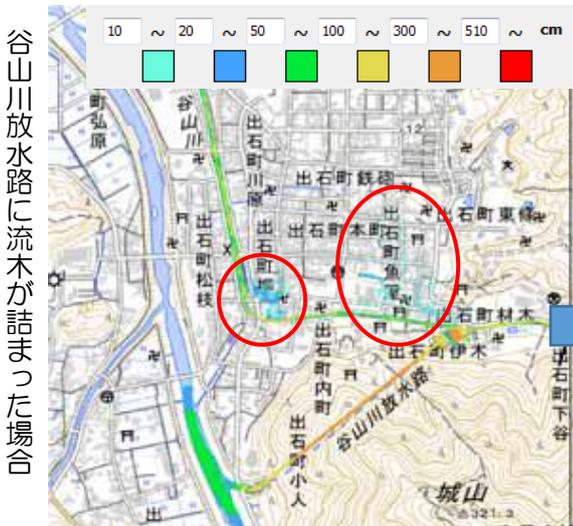
▲水門の箇所

### 水害が発生した時の対策は？

Q. 出石川と谷山川の合流地点に水門があり、豪雨時など、出石川の水位が谷山川より高くなると水門を閉めている。その際、内水を外に出せなくなるので、小規模な台風でも一部の地域が浸水してしまうため、ポンプアップで内水を汲み出す作業を行ってもらうことになる。

A. 内水氾濫（町中に降った雨が排水できずに氾濫する）の発生時、ポンプで対応できる水害については、これまでの経験によるノウハウで対応していただければ良い。

しかし、近年発生しているような豪雨が起こり、出石川、谷山川ともに水位が上がった場合にはポンプアップは使えなくなる。更にそれを超えるような豪雨が近い将来必ずやってくると危惧しており、その際の対応についても検討しなければならぬと感じている。



▲50年確率、降雨開始から30分後（水害対策チーム）

### 集中豪雨は大丈夫なの？

Q. 外水氾濫（谷山川の水が溢れて町の中に入ってくる）をベースに検証されているが、集中豪雨で内水氾濫の危険性もあると思う。それらは今後検討されるのか。

A. 内水氾濫を考える場合、周辺の山地に降った雨水も入る。谷山川の本川だけでなく小溪流からの水も町中へ入ってくるため、今後の検討の際にはその点も併せて考えなければならない。

# 伝建地区防災計画策定委員

## 第2回開催報告

前回のかわら版では、第1回策定委員会の開催内容を紹介しました。今回は、2021年3月5日(金)に開催した第2回策定委員会についてお知らせします。

災害リスクに応じた7つのチームからの調査経過報告後、各委員からご意見をいただきましたので、その一部をご紹介します。

### 【立命館大学 調査チーム】

- 建築意匠・防火意匠チーム
- 住民意識と防災活動の課題調査チーム
- 地震対策(構造)チーム      • 火災対策チーム
- 水害対策チーム                • 地盤災害対策チーム
- 避難対策チーム



▲第2回策定委員会の様子



### ＜室崎益輝委員長あいさつ＞

防災計画を策定する上で良いと思う点が2点ある。

1 点目は、防災組織の強化だけでなく、出石の特性や住民の人口移動を調査し、今後のまちづくりにも活かされるデータベースが示される点。

2 点目は市民の意見を広く聞くことができる点。

この委員会を通じて、伝建地区とその周辺における課題を明らかにすることが必要である。

第1回目の策定委員会後、成相委員から提案された意見がありましたので、その一部を以下のとおりご紹介いたします。

### 用水路の活用について

- 出石は水路がたくさんあり、きれいだが、暗渠側溝となっておりもったいないと感じる。防災のためだけでなく、日頃の生活にも活用できないか。  
一般の人は水がきれいだからお蕎麦もおいしいというイメージを持たれると思うので、そのような視点での水路の活用もできないか。
- 水路に水を溜める場所があれば初期消火にも利用できる。ろ過フィルターを使えば、非常時には飲用水にも使える。

### 北海道での被災体験

- 2018年の北海道地震を現地で経験し、数日避難所で過ごした。避難していたのは自分たちと外国人グループの2組だったが、避難先では職員さんをお願いすることばかりでとても大変そうだった。2組だけでも大変な様子で、もし出石で災害が起きたらどうなるのかと思った。



◀成相淑子委員

### 今後の流れ

第3回策定委員会(10/6予定)

↓  
伝建審議会(12月中旬)

↓  
住民報告会(12月中旬)

↓  
第4回策定委員会(R4年1月下旬)

↓  
伝建審議会(R4年2月初旬)

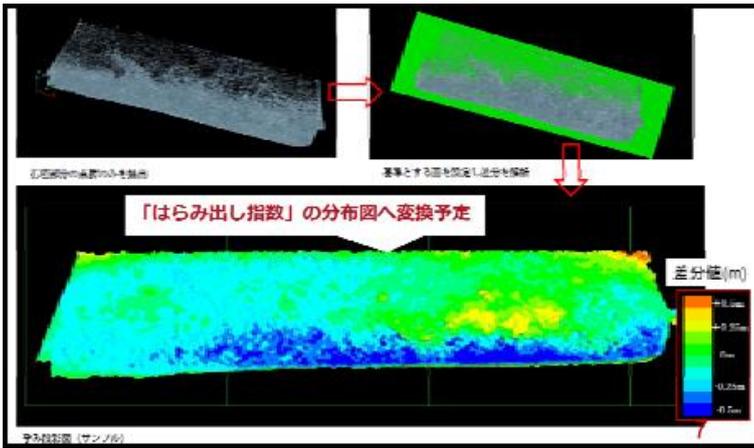
↓  
防災計画完成

↓  
具体的な取り組みを開始

↓  
防災訓練・学習会・

↓  
ワークショップ等の継続開催

## 委員からの質問やご意見（一部抜粋）



▲稲荷台下の石垣（北面）の孕み出しの状況

### <地盤災害対策について>

城山について、一番上の稲荷曲輪が孕（はら）んでおり、前々から怖いと思っている。  
稲荷台には杉の大木があり、稲荷曲輪の景観の醍醐味にもなっているが、暴風雨や台風時の倒木などの危険性を教えていただきたい。



▲出石土蔵配置図

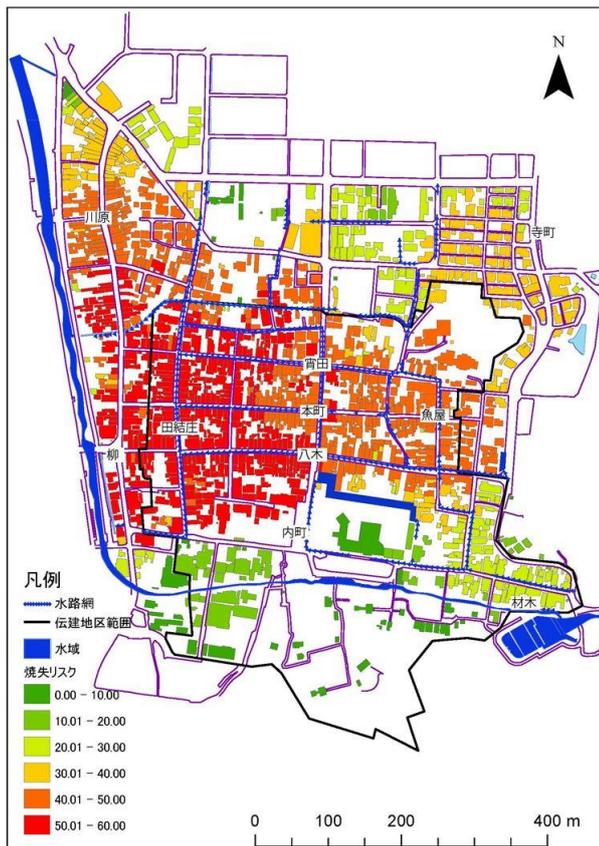
### <火災と意匠について>

明治9年の大火では大半の家屋が焼失したが、防火建物である土蔵がどの程度焼け残っていたかなど、土蔵の調査ができていない。土蔵の調査を行うことで、明治9年以前の近世に遡る伝統的建造物の所在の把握に繋がります。今後有益なものになると思う。  
また、裏庭空間についても調査し、避難経路や放水範囲の確保など裏庭空間の防災活用が課題になると思う。

### <水利について>

これまでの出石の景観まちづくりは、昭和60年の宮脇構想<sup>(注1)</sup>が基本になっていると思う。宮脇構想では水路に注目され、清流を活かすという提案がなされている。今回の防災計画を機に、宮脇構想も念頭に置いた景観に繋がっていけばありがたい。

(注1) 宮脇檀建築研究室+岡本哲志都市建築研究所  
「出石町らしさをつくりだすために」(昭和60年)



▲城下町エリアの既存水利の分布（青）

### <全体について>

防災計画を策定する中で、「出石らしさがどう守られていくのか」がポイント。  
それぞれの災害へのアプローチの中で、出石らしさをどう維持していくのが重要であると感じた。  
宮脇さんが考えた出石らしさも含め、出石在住の皆さんが考える出石らしさは何かを探りながら、更に計画が深められることを期待したい。